

2016年度総会

2016年5月31日開催

県東部地域の活性化に向け、提言や支援活動を強化 小山薫堂氏が記念講演、企画力を高める思考法など紹介



「サンフロント21懇話会」＝代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長（現会長）＝は5月31日、三島市のみしまプラザホテルで2016年度総会を開いた。会員の企業経営者や市町長、行政関係者ら約170人が出席し、中長期的な活動方針（4項目）に基づき具体的に取り組む実践項目として「伊豆の老舗旅館と文豪遺産」（仮題）をテーマに、文豪と伊豆の旅館の関係を物語化して日本遺産の登録申請を推進するなどの5項目を正式に決めた。この後、熊本県のPRキャラクター「くまモン」の生みの親でもある放送作家で脚本家の小山薫堂氏が「幸せの企画術」と題し

て記念講演を行った。

主催者を代表して北村敏廣静岡新聞社専務は「今後も地域活性化のための研究・提言活動に取り組んでいく」とあいさつし、岡野代表幹事は「提言や支援活動は地方創生を最重要課題と位置付ける国に先んじた活動だ」と強調した。

活動方針案を報告、説明した伊東哲夫運営委員長は「伊豆の老舗旅館と文豪の関わりを物語化した観光ルートの開発を推進し、文化庁の日本遺産への登録を目指したい」などと意欲を示した。

主催者代表あいさつ



静岡新聞社専務

北村敏廣

サンフロント21懇話会2016年度総会に多数の皆様のご出席いただき心より感謝申し上げます。懇話会活動は今年で22年目を迎えております。地域活性化策の提言団体としての歴史を重ねつつ、ここまでいくつかの提言を実現させることができました。これはひとえに会員の皆様方の熱意のおかげでございます。

記念講演の講師には放送作家で脚本家の小山薫堂様をお迎えしました。小山様はご承知の通り人気キャラクター「くまモン」の生みの親でもあります。くまモンは現在、熊本地震で被災した人々を癒し、励ましています。懇話会は一貫して地域の活性化を支援してまいりましたが、小山様はくまモンに象徴されるように人々に幸せと笑顔を与える達人です。住んでいる人に幸せを与えることこそ地域活性化の根源ではないでしょうか。本日のテーマ「幸せの企画術」から、会員の皆様とともに我々も何かヒントを得られればと思っております。

懇話会は今後も地域の人々が主役になり、地域に密着した地域のための活性化策の提言に向けた研究活動・提言活動に取り組んでまいります。

懇話会代表幹事あいさつ

われわれサンフロント21懇話会は県東部の各エリアやそれぞれの地域の特徴を生かして活性化の提言や支援に官民一体となって取り組んでまいりました。地方創生を最重要課題とする国に先んじた活動であると自負いたしております。このような有意義な活動を今日まで続けられたのは、会員の皆様のご協力のたまものと深く感謝しています。

2016年度の活動は総会でご審議いただきますが、2020年東京五輪・パラリンピックの伊豆市開催に向けての支援を新たに加えたいと思っております。今秋には富士山麓と伊豆西海岸で自転車競技が盛んなイタリアとの交流サイクリング大会の開催が予定されています。これらを機に伊豆と富士山が自転車の聖地となるための提言・支援活動に取り組んでいきたいと思っております。また伊豆の老舗旅館と文豪のかかわりを物語化した観光ルートを開発し、文化庁が東京五輪までに100件の認定を目指している日本遺産への登録申請を行っていききたいと思っております。



スルガ銀行社長(現会長)

岡野光喜

2016年度 活動方針

総会で伊東哲夫運営委員長が報告し承認された2016年度の活動方針は、中長期的な視点から継続的に取り組む基本方針として、これまでの「ファルマバレープロジェクトの推進」「広域連携の推進」「新たな観光交流戦略の促進と支援」に、「2020年東京五輪・伊豆市開催の支援」が新たに加わり、4項目となりました。これら活動方針の実現に向けて取り組む活動テーマには5項目が決まりました。各テーマの概要は次の通りです。



◆◆◆スポーツを通じた地域創生の支援◆◆◆

静岡県と自転車競技が盛んなイタリアの州との交流が始まり、10月には富士山麓の小山町と富士山を望む伊豆半島西海岸でサイクリング大会が開かれます。2020年東京五輪の自転車競技（トラック・MTB）会場が伊豆市に決まり、交流人口の増大が見込める自転車のビッグイベントが相次ぎます。文化と信仰の対象である富士山の付加価値を高め、ジオサイトや温泉など自然に恵まれた伊豆半島を世界に発信することで、富士山と伊豆が自転車の聖地となるための提言、支援活動に取り組みます。

サッカーJ3への参入を目指すJFL「アスクラロ沼津」は、東部地域の経済と心の活性化に結び付く重要なスポーツチームの一つです。上位リーグへの昇格を果たすことで、子供たちにさらなる夢を与え、飲食・宿泊をはじめとする幅広い経済効果が期待できます。

県東部の市町と地元企業が連携し、スポーツ産業の創出を目指す「県東部地域スポーツ産業振興協議会」の動きを応援し、地域創生につなげていきます。

◆◆◆伊豆の老舗旅館と文豪の関わりを物語化した観光ルートの開発◆◆◆

伊豆半島には明治以降、旅情を求めて多くの作家や詩人が訪れたり滞在したりしてさまざまな作品を世に送り出しました。都会の喧騒を離れた作家たちは、伊豆の自然や人情、温泉、食を愛でながら創作に励みました。その足跡や交友の跡は伊豆ならではの文化としてこの地に残されています。そこで地域活性化を主眼とした文化庁の日本遺産への登録を視野に入れ、「伊豆の老舗旅館と文豪遺産」（仮題）をテーマに、伊豆半島に現存する旅館と文人・墨客との関わりを、地域の伝統や文化などを盛り込んで「ストーリー化」した観光ルートを開発します。日本遺産への認定を実現するため、当該市町や美しい伊豆創造センターなどとの協力態勢をつくり、日本遺産の登録申請を推進します。文化庁は東京五輪・パラリンピック開催の2020年までに100件の認定を目指しています。

◆◆◆世界遺産を守り、育てる支援◆◆◆

世界遺産登録から4年目を迎える富士山は、世界遺産委員会で認められた「信仰の対象や芸術の源泉」という“原点”に返った取り組みが必要です。富士山の保存管理や情報発信の拠点として静岡県が2017年10月の完成を目指す「富士山世界遺産センター」の利用促進とともに、神社仏閣などソフトパワーを持つ構成資産を巡る歴史・文化観光、トレイルやサイクリングといったスポーツを活用した周遊観光の振興や富士山を背景とした富士市の工場夜景の利活用の推進など、富士山に負荷を与えない活用方法を提案、支援していきます。

さらに登山者数を制限する登録制度の導入をはじめとする富士山の包括的な保全管理の在り方を提言し、「世界遺産を守り、育てる」両県民の自覚を促す、活動を展開します。その一環として周年観光にも結びつく山梨県側の富士スバルライン、静岡県の富士山スカイラインの登山鉄道敷設の可能性などの研究に取り組みます。

また世界遺産となった伊豆の国市の韮山反射炉（明治日本の産業革命遺産）の支援にも取り組みます。

◆◆◆動物愛護と福祉思想の啓蒙・啓発と保護施設の開設支援◆◆◆

動物保護施設（アニマルシェルター）は当懇話会が2011年度、静岡県知事に設置を提言し、沼津市には時代を先取りする施設と評価をいただき、同市での開設を支援してきましたが、地元の同意が得られず、建設は中止となりました。しかしながら動物の愛護・福祉思想の高まりや普及を背景に犬猫の殺処分ゼロの実現、飼い主の入院や転居、死亡などやむを得ない事情で行き場を失った犬猫を保護し、新しい家族（飼い主）を見つけるための動物保護施設の必要性、重要性は今後、ますます高まっていくと考えます。

伊豆市が2020年東京五輪の自転車競技の会場に決まりました。自転車競技の強豪国は動物愛護意識の高い欧米の国々です。伊豆・東部が動物に優しい地域に成長していくことは五輪開催に向けた側面支援につながるでしょう。動物保護施設は動物愛護イベントの開催などを通じて交流人口の拡大に寄与することも期待でき、新たな地域創生の拠点となりうる施設です。

◆◆◆アグリノベーション・リサーチセンター構想の推進◆◆◆

静岡県は健康増進のための機能性が科学的に明らかにされた農作物など「アグロメディカルフーズ」の研究開発に取り組む拠点施設を2015年に閉校した東海大開発工学部（沼津市西野）に設ける方針です。2017年開所が見込まれ、県は農作物の機能性を高める栽培条件や生産システムの構築を、光・計測関係のトップグループの一つ理化学研究所や農業情報科学のリーダー・慶応義塾大学と共同研究を進めていきます。当懇話会はアグロメディカルフーズの研究開発プロジェクトとファルマバレープロジェクトとの連携を視野に入れながら、健康長寿日本を支える食のブランド化や情報発信を支援・推進していきます。

記念講演

「幸せの企画術」

講師 放送作家・脚本家
小山薫堂氏



「人間万事塞翁が馬」、 困難を知恵で価値にする

僕の名前をみて、「ペンネームですか」とよく聞かれますが本名です。「小山君どう？」から転じたペンネームではありません。熊本県の天草で生まれ、本業は放送作家、脚本家ですが、詩やエッセーも書いています。十数年前からいろいろ企業、地方行政のお手伝いをする事が多くなっています。そんな僕の今年の個人的なビッグニュースは2月に足を骨折し入院を余儀なくされたことです。京都の料亭の東京店オープンを前に、奈良の高名な陶芸家のもとに器を探しに行きました。そこで枯れ葉の下に丸太に足を取られ転倒しました。持っていた器を守ろうとして転んでしまい、足の骨を折ったのです。その折に浮かんだのは「人間万事塞翁が馬」。入院生活を存分に楽しもうと決めました。自分の病室をお茶室に見立て、庵の

名前も付けてお茶とお菓子で来た方をもてなしました。京都で開く予定の写真展はタイトルを「ライカと歩く京都」から「ライカと歩けなくなった京都」に変更し、ケガをした時の様子も加えて発表しました。どんな困難に直面しても、自分の知恵でそれを価値にする。これが企画です。きょうはこれまでどんな企画を立ててきたのかお話ししたいと思います。

自らに問う「新しいか、楽しいか、 誰かを幸せにしているか」

僕が企画の仕事をするとき、自からに問う3つのことがあります。

- ①その仕事は新しいか。誰かがやっているような仕事じゃないのか。人々が初めて目にするような仕事かどうか。
- ②その仕事は楽しいか。やっていて辛くなるんじゃないかと、自分が楽しんでその仕事ができるだ

ろうか。

- ③その仕事は誰を幸せにするか。誰も幸せにならないような仕事なら、こんなに切ないことはないから。

最良の仕事とはこの3つすべてが当てはまる仕事ということになりますが、どれか1つでもいいんです。例えば楽しくはないけれどすごく新しいものを作っているのならやろう、どれにも当てはまらないのならやめようと20年ほど前に決めました。新しいか、楽しいか、誰かを幸せにしているか—の3つです。

企画力を磨くトレーニングは「勝手にテコ入れ」

企画力を磨くためのトレーニングは日々やっています。自分では「勝手にテコ入れ」と呼んでいますが、頼まれてもいないのに何かもっと良くなるんじゃないか、頼まれてもいないのに自分が社長だったらこうするんじゃないか—と常に目に見えているものを自分への宿題・課題だととらえ、考えるトレーニングをしています。

栃木県の老舗ホテルの例を紹介します。創業約150年、現存する日本最古の西洋式ホテルです。15、6年前に初めてお客さんと行ったとき、「勝手にテコ入れ」の視点で見ました。雰囲気はいいし、流れている時間もいいのに、どうもスタッフが生き生きとしていない。倉庫がいろんなところにあってもったいないなと思っていたところ、その社長さんが「何か気づいたことがありましたら遠慮なく言ってください」とおっしゃったので、「プール横のすごく見晴らしのいいところが倉庫になっているのはもったいない。サロンにしたらどうか」などと良質なクレーマーとして言わせてもらいました。良質なクレーマーというのはお店にとって極めて大切に、良質かどうかを決めるのは受け手側の姿勢です。社長さんは真摯な態度で耳を傾けてくださいました。これが縁でいろいろな相談が来るようになり、結局、顧問を引き受けました。

最初に目を付けたのは社員の名刺を作ることでした。既にある予算の名刺を利用してホテルの改革ができないかと考えました。社員のホテルに対するホテル愛をはぐくみ、もっと誇りを持ってホ

テルの魅力を語れる社員になってほしいと思ったからです。どうしたかという、まず自分の好きな場所を挙げてもらいました。社員が自分とホテルの距離を見つめ直し、一番好きな場所を考えるきっかけとなってホテルへの愛情が確認できました。

従業員の名刺裏に写真。

ホテル愛はぐくみ、新サービスに

どんなものが挙がってきたかと言うと、回転扉など装備品のほか、厨房で初代のシェフから使われているコンロの「五徳」や皇后陛下（美智子さま）が幼いころに遊ばれ、今は倉庫に眠っている「木馬」などがありました。これらの中から30種類に絞り、それぞれが好きなものを名刺の裏にプリントして普段は名刺を使わない部署の人にも持ってもらいました。加えてお客さまからホテルマンに声を掛けてもらおうと、「当ホテルではスタッフ一人一人が写真付きの名刺を持っています。全30種類を集めると、小さな写真集ができます」と館内ポスターで呼び掛けました。そうすると、小さなお子様たちがホテルマンに「名刺ください」というようになり、何かのカード集めのようにコレクションするようになったのです。30種類のうち一人しか持っていない名刺がレアものとして人気となりましたが、持っているのは厨房で働く見習いコックです。お客さまと接する機会が少ないため手に入りにくいのです。そのうちに子供たちが困っているのを見たフロントの女性が「レアものの名刺を持っているお兄ちゃんを紹介してあげる」と言って厨房の横まで案内してくれるようになりました。スタッフ間の横のつながりも生まれたのです。スタッフのホテルへの愛を確認し、お客さまとの新しいサービスのきっかけを作るようになりました。

感情移入は企画の神髄、ポイントは誕生日祝い

企画の一つの成功例ではないでしょうか。お金をかけなくても知恵を絞って人々が動き始める。ここに企画の神髄ありと思っています。根幹となるのは「感情移入」です。感情移入するからこそホテルへの愛が生まれ、愛が価値に代わるのです。

なんとも思わずに触れるものと、好きだと思って触れるものは必ず違います。愛妻弁当しかりです。おふくろの味もそうかもしれない。自分の愛する人が作ってくれるからこそおいしいと思えるのではないのでしょうか。

感情移入のポイントはバースデープレゼントだと思います。バースデープレゼントを探す時はその人のことを考え、何を喜んでくれるかを考えて探します。企画もそういうものだと思います。

僕が45歳の時にバースデープレゼントとして筆をもらいました。習字をやってみたいと思っていたところでしたので非常にうれしかった。まずきれいな映像（VTR）を見せられ、人間国宝のような職人さんが魂を込めて筆を作っていました。そんな映像を見せられてプレゼントを渡されると、「名人の作った筆をありがとう」とつい思ってしまいます。ところが、遅刻してきたスタッフが「申し訳ない」と言って帽子を取り頭を下げると、なんと坊主頭です。いつも長髪で髭ぼうぼうの彼が坊主頭になっている。いやな予感がしました。まさかと思いました。彼の髪で作った筆でした。しかも筆づくりの名人はネットで探した赤ちゃんの毛で筆を作る職人さん。わざわざ作務衣みたいなものを着せ、重厚なナレーションを付けて名人に仕立てていました。これも企画力です。

サプライズが企画力を磨き、遊び心がビジネスに

企画力を磨くためのトレーニングはサプライズです。うちは20人ぐらいの小さな会社ですが、誕生日には必ずサプライズをやっています。手の込んだストーリーを作ることもあって一番のヤマ場は僕の誕生日、次は軽部という副社長の誕生日です。2年前の副社長の誕生日に、いつも派手な洋服しか着ない彼にスーツを着させるサプライズを試みました。ニセのアラブの王子を仕込み、実際にサウジアラビアで工場を作っている企業の社長さんに間に入ってもらい、食事会からストーリーを展開させました。ニセ王子いわく「実は今度アパレルに投資する。ニューヨークのデザイナーの弟子に投資して日本でデビューさせる。モデルを小山さんをお願いしようと思ったが、副社長、あなたの方が洋服も似合うしモデルにも向いてい

るからやってくれませんか」。副社長は「僕がやりましょう」とまんまと引っ掛かり、肩を組んで写真まで撮りました。モデルデビューが決まってニコニコ顔で写真に納まっています。ブランド名は「チャーリー・バイス（ちゃらいバイスプレジデント)」。チャーリーのリーはわざとL I E（嘘）を使いました。

さらに一番安い紺色のスーツを買って来て、「くまモン」をデザインしてくれた優秀なデザイナーにタグのデザインをお願いし、女性社員が縫い付けました。撮影には雑誌のカメラマンとスタイリスト、ヘアメイクさんを用意して別冊になるという想定で撮影を行いました。その時の写真がこれですが、カメラマンがボソッと「表紙に使えるかも」とつぶやくと、その気になっていた彼はすっかり喜んで…。すると後ろの黒い幕が開いて「ハッピー・バースデー」。6月から約3カ月掛けました。彼も警戒はしていたでしょうけれど、まさか誕生日のサプライズだとは思わなかった。大成功でした。

チャーリー・バイスには後日談があります。京都の帆布職人さんに頼み20個作ってもらい、周りに声を掛けたところ2万円ぐらいするバッグがたちまち売り切れ、もう20個を追加発注しました。納入日に大手百貨店首脳と会食があったので「これが今話題のチャーリー・バイスのバッグです」とお土産に持って行きました。「勉強不足で存じ上げませんでした」と謙遜されましたので、「実はこういう経過で生まれた架空のデザイナーで、一つのブランドの実験をしているつもりです」と説明しました。すると、「うちで作りませんか」とおっしゃり、次の日、紳士服担当役員から電話がありました。「よく分からないのですが、小山さんのところに行って話を聞き、お店を作れと言われた」と尋ねてこられた。それから半年後、新宿店のメンズ館にチャーリー・バイスの店100平方メートルが誕生しました。できたはいいが売るのがありませんので、少しずつ商品を作りながらです。チャーリーの友人だけが使えるオフィスというものを設けて、いろんなブランドとコラボしながらチャーリー・バイスの商品を作っています。チャーリー・バイスの実験というか、遊び心から始まったビジネスモデルはまだ進行中です。

観光の視点を変えた キャンペーンから生まれた「くまモン」

このような共感を生むために必要、大切なことは視点を変えることです。僕の好きな陶芸家河井寛次郎は葉っぱが虫に食われているのを見て「哀れだ」と思いました。でも視点を変えると「葉っぱは虫を養っている。虫は葉っぱに養われている」。その瞬間、「哀れだと思った葉っぱがとても尊いものに見えてきた」と日記に書いています。企画もそうです。視点を変えて見る人がどう思いを巡らすかによって価値が変わるのだと思います。

観光の視点を変えた観光キャンペーンをやったことがあります。2011年に九州新幹線が全線開通し、熊本が通過県になるという背景のもと、県から依頼されました。今までは福岡博多から鹿児島に旅行する際には熊本に一泊する人が多かったのに素通りしてしまうし、熊本の若者は地元で買い物をせずに新幹線で30分の福岡へ行ってしまふ。熊本には何の得もないじゃないか。県民の消極的な姿を見たとき、観光予算を使うならもっと違うことをやった方が価値になるのではないかと考えました。熊本県民が旅人になった気分自分たちの暮らしを見てみる。そうすると、当たり前だと思っていたいろんな価値がいとおしく思えてきます。例えば水です。僕は高校まで熊本市に住んでいたけれど、大人になって戻ってくると水の甘さ・おいしさにハッとします。なぜなら阿蘇に降った雨が地中を20年かけてくぐり、湧き出てくるミネラルウォーターだからです。豊かな水の恩恵は人々の幸福度の向上につながり、ひいては県の魅力になって、外の人が観光したくなる。そんな種をたくさん見つけて自分たちで味わいましょう。それを「熊本サプライズ」と名付けようと提案しました。

キャンペーンを盛り上げる象徴として誕生したのが「くまモン」です。ゆるキャラを作ったつもりはありません。熊本県にある自分たちの宝物を見つけましょうというキャンペーンの象徴となるキャラクターとして発表しました。

くまモンは新幹線元年戦略室に属していたのですが、県庁内のいろんな課が使ってくれるように

なり、県庁の縦割り組織が横につながるようになりました。この時に県の許可を取ればだれでも使える制度を作りました。露出させることが大切でしたが、テレビ局はなかなか取り上げてくれません。登場させようとするすると邪魔者扱いされるなど寂しい思いもしました。人の目に触れるようにするためにはこのキャラクターを使った商品をたくさん登場させるしかありません。そこで県内業者、あるいは熊本産の原材料を使ったものに限るというシステムで誰にでも使えるようにしたのです。申請初日、出足が心配で県庁に電話を入れました。「すごい行列ができています。100人ぐらい」と聞いてホッとしました。ちなみに第1号は仏壇でした。一瞬耳を疑いましたが、県の担当者は「県内業者で県産の材料。断る理由がなかとです」。この仏壇屋さんはいろんなメディアに取り上げられ、くまモン仏壇だけでなく普通の仏壇も売れるようになって感謝されています。今ではこれを恥ずかしくなく言えるほどくまモンのブランド力は上がりましたが、最初のころは隠したくてしよがなかつた商品です。

くまモンは2014年1月に営業部長から幸せ部長となりました。知事が幸福量の最大化を県政の一番のミッションと位置づけ、「県民が幸せになるようなきっかけをみんなで考える運動をしましょう」と示したことからです。くまモンの昇進プランは以前から浮上していたのですが、県組織では部長の上は副知事ですから、ちょっとイメージが違うということで幸せ部長となりました。

幸せ部長の仕事は熊本県民から日常のささやかな幸せを報告してもらうことです。このアプリは熊本の大学生が無償で作りました。例えば、「スーパーのレジでの支払いが財布の中のお金とぴたり合った」「久しぶりに朝から快晴で洗濯物が乾きそうだ」「2歳の息子が一人でトイレに行けた」というようなことです。今年の4月から始めましたが、これによって県民が日常にあるささやかな幸せをどれだけ感じてもらえるか、大いに期待しています。

熊本地震被災者の声を集め、共感の輪を広げる

そんな折、熊本で地震が起きました。まず寄付

集めに思いが至りましたが、同時にこれだけ全国から熊本に心を寄せてもらえる機会はなかなかありません。熊本のファンを増やすきっかけにしたいと考えました。被災者はどうしても受け身になりがちです。そうではなくて被災した人が世の中の人に勇気を与えられたら、世の中の人はずっと感動してくれたり元気になったりするに違いない。そうすれば被災した人はもっと勇気をもらえるし、支えられている時よりも支えている時の方が幸せになれるんじゃないかと思いました。そこでツイッターのハッシュタグ「#くまモンあのね」を開設し、被災した人につぶやいてもらっています。これを見た世の中の人々が「熊本の人強いな」「自分たちも頑張らなくちゃ」と思った時、熊本の人々は「自分の言ったことが誰かの役に立つんだな」「いいことしたな」と思えるのです。

「くまモンあのね」にはこんなつぶやきがありました。「4歳のわが子に、おにぎり食べなさいと言ったら、皆の分あるの?と聞いてきたよ。一つ食べた後にお代わりしていいよと言ったら、ママの分なくなる、もうお腹いっぱいって。優しい子に育ててくれてうれしかったよ」「やっと水道から水が出るようになったよ。お洗濯もできるし、トイレも不自由なくできるようになるよ。当たり前だと思っていたことがすごいありがたいことだっけ気づいたよ」。

こういうことをいろんな人がつぶやいて、世の中の人々が共感し、共感されていることが熊本の人に伝わっています。僕はいつも「幸せは探すものではなく気付くもの。探し続けるとどんどん手の届かないところへ行ってしまうが、既にあるものの中から探した方が人生では幸せだ」と思っています。

究極の企画は「自分の人生を楽しくすること」

僕にとっての幸せは面白い企画を考えて実施することです。今、一番面白いと思っている企画は「湯道」で、お茶ではなくお風呂に入るといふことです。茶道は400年かかって一つの文化芸術になりました。お風呂に入るといふことを一つの道にしておけば400年後に自分の名が残るんじゃないかと期待して京都の高名な和尚さんに湯道を一

緒に開いてくださいとお願いしました。書いてもらった言葉が「湯道温心」です。和尚さんによれば「日本のお風呂は飲める水を沸かして入る。こんな贅沢なことができる国は地球上探してもほかにない。なんと豊かな国か。その日常に感謝しなければなりません」。お風呂に入る時は隣の人にお湯がかからないように気を配ります。つまり慮る力を磨く。そして日本の伝統工芸を応援する。お茶もお茶碗がお道具になったことで連綿と続く文化となりました。何か伝統工芸を応援するきっかけになったらいいなと考えています。

湯道をやっていて、僕の心の支えになっているのは日本初の天気予報です。1884年6月1日、ちょうどあすが日本初の天気予報が出された日です。東京気象台が発表した予報は「全国一般風の向きは定まりなし。天気は変わりやすし、ただし雨がち」というものでした。これが僕を大いに勇気づけてくれています。こんな適当な天気予報を出して自分ができなくても、百数十年後の今、細密で正確な予報が出せるようになっていました。でも誰かが一步を踏み出さなければ今の天気予報はないのです。ですから「まだ湯道の方がまし」と思えるのです。これは無理かな、本当にいいのかなと思ったとき、日本初の天気予報を思い出していただければ絶対に背中を押されるのではないかと思います。

僕が思う究極の企画とは自分の人生を楽しくすることです。結局自分がどう生きるか、どんなに楽しく生きるかということで仕事をしていたりプライベートだったりすることで、それが豊かに楽しくなるということが究極の企画だと思います。ぜひ皆様も自分なりの究極の企画を見つけていただければなと思っております。

<講師プロフィール>

◆こやま くんどう 氏 1964年熊本県天草市生まれ。大学在学中に放送作家としての活動を開始し、これまでに「カノッサの屈辱」「料理の鉄人」「東京ワンダーホテル」「ニューデザインパラダイス」など斬新な番組を数多く企画・構成。初の映画脚本となる「おくりびと」では第81回米アカデミー賞外国語映画賞を受賞した。執筆活動のほか、地域・企業のアドバイザーなどを務める。くまモンの生みの親でもある。

幹事・運営委員と県東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議

3月30日／サンフロント9F ミーティングホール

16年度活動方針案を報告、講演「皇室取材の現場から」

官民一体で東部・伊豆地域の活性化を提言するサンフロント21懇話会＝代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長（現会長）＝は3月30日、沼津市のサンフロント9F ミーティングホールで幹事・運営委員と県東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議を開いた。懇話会活動も22年目を迎え、これまでの活動を踏まえ、中長期的な視点で取り組むべき活動方針と、その活動方針を実現するため、年単位で取り組む活動を次の5項目にわたって設定した。

- ① スポーツを通じた地域創生活動支援
- ② 伊豆の老舗旅館と文豪のかかわりをストーリー化した観光ルートの開発
- ③ 世界遺産を守り、育てる支援
- ④ 動物愛護と福祉思想の啓蒙・啓発と保護施設の開設支援
- ⑤ アグリイノベーション・リサーチセンター構想の推進

議事に先立ち、北村敏廣静岡新聞社専務は「サンフロント21懇話会は、安倍政権が掲げる地方創生活活性化に先んじた活動を20年以上もの長きにわたって展開し、誇りに思う」と挨拶し、市長町長連絡会議会長の栗原裕康沼津市長は「東海大学開発工学部の跡地をアグリメディカルフーズ研究拠点に。また東京五輪自転車競技の伊豆市開催を機にこの地域一帯をサイクリングの聖地に。サンフロント21懇話会にご指導ご鞭撻をいただきながら、我々市町も県議会議員や国会議員の先生方と頑張ってもらいたい」と具体的な活動テーマを上げて期待感を寄せた。

会議に引き続き、長年皇室取材を担当する共同通信社編集局次長の新堀浩朗氏が記念講演し、天皇皇后両陛下の戦争と平和に対するお気持ち、日頃の暮らしぶりなどについて話をされた。

主催者あいさつ



静岡新聞社代表取締役専務

北村敏廣

官民一体となって県東部地域の活性化策を提言するサンフロント21懇話会の活動は、今年で22年目に入ります。安倍政権が掲げる重点政策である地方創生に先んじた活動を、20年以上も長きにわたって展開してきた当懇話会活動を誇りに思っております。今後も県東部の都市づくり、地域づくり、自立促進に必要な提案提言を積極的に行ってまいります。

当懇話会の2016年度の活動方針は、2015年度と同様、これまでの活動を踏まえ、中長期的な視点で取り組むべき活動方針と、その活動方針を実現するため年単位で取り組む活動を設定し、新たに2020年東京五輪自転車競技の伊豆開催支援を加えました。会員の皆様の一層のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

サンフロント21懇話会の活動が22年目ということで、本
当に様々な活性化策をご提言いただいております。たと
えばキラメッセ沼津などご提言が形になったものもあり、高
い席ではございますが、心より感謝申し上げます。

今後につきましても具体的なお提言をいただいております。
たとえば東海大学開発工学部の跡地をアグリメディカルフ
ーズ—健康や医療に役立つ農業を科学的に究明し、健康増
進の先進地域にするための研究拠点にする計画。また伊豆
市でのオリンピック自転車競技開催を機に、伊豆地域をサ
イクリングの聖地にする計画等、さまざまな面でサンフロ
ント21懇話会の皆さま方にご指導ご鞭撻をいただきながら、
我々市町も県議会議員や国会議員の先生方と頑張ってい
ます。簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。



沼津市長

栗原裕康

講演

『皇室取材の現場から』

講師 共同通信社編集局次長

新堀浩朗氏



貞明皇后が愛された沼津御用邸

本日は、皇室の中、なかんずく天皇皇后両陛下
を中心にして私が見聞きしたこと、それに加えて
私を感じたこと、思ったことを含めましてお話を
し、皇室について一緒に考えてまいりたいと思
います。

沼津は皇室と大変ご縁があります。沼津御用邸
は他の御用邸同様、大変落ち着いた造りになっ
ております。とりわけ貞明皇后は沼津御用邸によく
いらっしゃったようで、宮内庁に貞明皇后にお仕
えしたという人にお話をうかがったことがありま
す。沼津御用邸にいらっしゃるときは、貞明皇后
のお印が藤でいらっしゃるので、藤の染め抜きが
ある風呂敷をお手元に置かれる。今もそのお姿を
懐かしく思い出されるそうです。

沼津御用邸には牛を貨車で運んで来たこともあ
るそうです。当時、皇居で牛を飼っていたそう
です。沼津の御用邸でも乳を搾り、周りやご縁の者
が賜ったと聞いています。

今の陛下も幼少のころから沼津にしばしば滞在
され、地元の地引網漁を見学されたり、学習院遊
泳地で後輩に水泳のご指導をされたそうです。

今日はまず、天皇陛下の平和を希求するお考え
お気持ちの基になっているものはどんなものであ
ろうかということをお話しして、天皇陛下のお人
柄、お仕事のなさりよう、皇后さまのお人柄とな
さりようを考えてみたいと思います。

今年のフィリピンご訪問の意義

みなさんのご記憶にも新しいと思いますが、天
皇皇后両陛下は今年1月26日から30日までフィ

リピンをご訪問になりました。国交正常化60年に際し、国賓としてのご訪問です。

国賓としての国際親善が主目的であります、今回はそれに加え、戦争犠牲者の慰霊をされるということが両陛下のご意向にありました。

宮中晩さん会での天皇陛下のご挨拶では「先の大戦において、貴国の国内において日米両国間の熾烈な戦闘が行われ、貴国の多くの人が命を失い、傷つきました。このことは私ども日本人が決して忘れてはいけないことであり、この先の訪問でも深く心に置いて過ごす」とおっしゃっています。

宮中晩さん会に先立ち、マニラ市内の無名戦士の墓を拝礼されました。国賓がここを訪ねるのは儀礼的になっているようですが、これまで陛下は慰霊というものを敵味方の区別、将兵民間人の区別なく戦争犠牲者を悼むというお気持ちでされています。マニラ以外にカリラヤという町へヘリコプターで移動し、日本政府が建てた戦没者の碑を慰霊されました。このとき、日本人遺族250人ぐらいが集まり、両陛下は遺族の方々に丁寧にお声をかけていらっしゃいました。

外国訪問に限ったことではありませんが、陛下のご活動は世間の大きな注目を集めます。今回訪ねたフィリピンも、マニラでは日米が激戦し、一般市民が巻き込まれ、市街戦では1カ月で10万人の人が亡くなりました。フィリピン全土では百万人以上の方が亡くなったと聞きますが、戦後、フィリピンのキリノ大統領が「憎しみの連鎖を絶とう」と決断され、キリスト教会の働きかけもあって1956年に日本と国交正常化した。そのような歴史を、天皇陛下のご訪問をきっかけに知った方も多いのではないかと思います。私も今回のご訪問をきっかけに勉強させていただきました。

側近によれば、天皇陛下はそのような歴史があることはどうの昔からご存知だったようです。1962年、当時28歳の陛下はフィリピンを訪問され、先ほどの無名戦士の墓にもいらっしゃったのですが、昭和天皇のご名代としていかれたので、日本とフィリピンの関係や歴史について大変詳しく勉強をされ、戦争孤児のもとへも慰問に行かれたそうです。日本とフィリピンの悲しい歴史について、この時からずっと思いを寄せてこられたのではないかと思います。

今回のフィリピン訪問は、天皇陛下の外国慰霊の旅としては3回目と数えていいと思います。1回目は2005年にサイパンのパンザイクリフ。2

回目は戦後70年に際し、パラオのペリリュー島を訪問されました。

パラオもサイパンも日本が移民統治領として第一次大戦後にベルサイユ条約で統治を始めたところですが、フィリピンは日本が攻めて行ったところ。そういうところへ歴代天皇として初めて行かれた。厚生労働省のHPによると、先の大戦で亡くなったのは310万人で、外国で亡くなったのは200万人以上。海外の中に小笠原と沖縄が入っているかもしれませんが、一番多い戦死者は中国。フィリピンも51万8千人という数です。東南アジア諸国の中でも、天皇としてフィリピンに行かれたというのは大変大きかったと思います。それだけ天皇陛下の思いが大きかったのではないのでしょうか。

天皇陛下の外国ご訪問については、よく宮内庁の歴代侍従長も言われていますが、日本と問題のある国に陛下が行かれたら、向こうの国の気が休まるなどとは考えられないことで、やはり天皇陛下の外国ご訪問は一定程度の親善があり、国際親善がさらに増幅されるということが目的です。もちろん相手の国の政情にもよりますし、フィリピンが安定した政情だったとは言えない事情もありますが、今回はアキノ大統領という親日派の大統領がいた。親日派の大統領でなければ、日本兵の慰霊をするなど考えられなかったでしょう。今回、フィリピンに行かれて果たされたことは、非常に条件の隘路を縫って実現したことだろうと思います。

侍従長に、天皇陛下にはこれで一定程度のご満足があったのではと伺って見たところ、「天皇陛下に満足ということはない、果たせて安堵されたということだろう」とおっしゃっていました。

戦争の歴史についてご自身で学ばれた

天皇陛下は戦争と平和についてたびたびご発言されています。要約すれば、「戦争の歴史を十分に学び、戦争の惨禍を忘れずに今後の日本の在り方を考えよう」ということだろうと思います。

戦争の歴史を十分に学ぶということを最初に考えてみましょう。天皇陛下が戦争のことについて考えた最初は、やはり疎開先の奥日光から原宿駅の宮廷ホームへ帰ってきたときに目にした焦土と化した東京だったでしょう。そのとき一緒に帰ってきたご学友に話を聞いたことがあります。東京

が近づいてくるにつれ、だんだん焼け野原になり、宮廷ホームに到着して降りると周りには何もない。同級生は親御さんが迎えに来ておられたが、陛下のご両親は当然ながらホームにいらっしゃらない。お父様がどうなるのか、ご自分の家がどうなるのかがまったくわからない状況で、東京裁判が始まり、昭和23年12月23日、ご自分の誕生日にA級戦犯が処刑されたのです。

戦後、昭和天皇が全国を巡幸されておられたとき、皇太子だった陛下も巡幸されており、広島、長崎の被爆地を訪れ、原爆孤児の施設を訪問されています。戦争の惨禍を目の当たりにされておられるのです。そういう経験がおありですから、陛下には骨の髄まで平和の尊さということが染みついているわけです。

沖縄に関しては、結婚後、沖縄復帰前から沖縄学研究所所長の外間守善氏に付いて文学を学んでおられます。外間先生は沖縄師範学校にいらして、空襲で家は焼け、親元さんは対馬丸で沈没してしまい、お兄さんは県の職員をされていたのですが自決されたんだろうけど遺体は見つからない。先生は陛下に沖縄戦の悲惨さも教えたと思います。師範学校時代は自分で銃を取って戦って、同僚が沢山死ぬのを目の当たりにしたという先生ですから、陛下もお聞きになって強烈な印象を受けられたでしょう。

私はずっと、陛下が戦争のことを学んだのは昭和天皇からだとはばかり思っていました。高校生になってから、定例の参内ということで週に3回、陛下のもとへ通われ、お話をされています。昭和天皇から直に、戦争中のお苦しい経験をいろいろお聞きになったのではないかと。これだけ天皇陛下が戦争のことにお詳しいのは、昭和天皇の教えがあったからではないかと思っていたのです。ところがいろいろな方に伺うと、昭和天皇からというよりも、自学実習といえますか、ご自分で戦争のことを学んでいらしゃったのではないかと思えてきました。

両陛下のお住まいと暮らしぶり

話はわき道にそれますが、両陛下のお住まいの御所がどういうところかをお話ししようと思いません。

御所の玄関周りにはご縁のあった方々から贈られた花や木が植えられ、御所内にはお客様が宿泊

できる部屋、応接室、小広間、大広間、侍従や女官が詰める事務棟、私室があります。私室の前のお庭でよく年末になるとご一家そろって餅つきをされたりします。

玄関から入って左手の部屋では、皇太子時代からよくチェロを演奏されていました。昔の職員に聞くと、一生懸命演奏しておられるので、用があってもドアが叩けなかったといえます。

今、御所でもいろいろな公務を行っています。大震災の後、各国大使の親任式とご会見なども御所でやるようになりました。宮殿を使うとなると、天井が高く、冷暖房するにも大変な電力を消費するため、省エネの観点から御所でやるが増えたそうです。ペリリュー島の遺族団やハンセン病快復者との会見等も御所で行いました。

私室の部分は、我々はもちろん入ったことはありませんが、話を聞く限り、両陛下のご寝室とご書斎があり、三種の神器が保管されている堅持の間というのもここにあるそうです。陛下のご書斎には本や書類やパソコンもあります。

話が脱線して恐縮ですが、皇后さまのお部屋のほうが整頓の程度が低いらしいようで（苦笑）、よく「あそこにあるから取ってきて」と言われるとか。乱雑そうに見えてもどこに何があるのかご自身はよくお分かりのようです。ただし、少しでも移動させるとたちまち分からなくなる。そういうタイプの人っていますよね（笑）。

両陛下はとにかく非常に本を読まれるそうです。両陛下がお若いころ、ご夕食が終わると、天皇陛下が気合を入れて「さあこれから勉強しよう」というご様子になる。読まれる本は「鬼平犯科帳」じゃなくて歴代天皇のご事績とか群書類的な本です。ご研究のものも幅広くお読みになるそうです。

新しい御所が出来たとき、本が入りきれなくなり、廊下に本棚を増設したという話も聞きました。それでも置き場がなくなり、最近では部屋のふつうのところにも置かれている。とにかくお二人とも大変な読書家です。

戦争の歴史について

陛下ほど詳しい日本人はいない

天皇陛下は、陛下の日程として公表されているもの以外に、お客様をお招きして夕食をとともにされます。昼間、御進講を受けた学識経験者を私的

にお招きし、ゆっくりお話をし、本で得た知識を確認される。そういうことをずっと続けておられます。

平和を愛するとか歴史を学ぶと聞けば、ああそのとおりだね、と人は簡単に言いますが、歴史を学ぶということは大変なことです。膨大な史料を読まなければならないし、多くの知識を身に着けなければならない。そういうことができている私が話すのもおこがましいですが、天皇陛下が「歴史を十分に学ぶ」と言われるとき、陛下のなされようを見ていると、これはうかうかと聞いてはいられないという気分になります。

陛下はまた「戦争の惨禍を忘れず語り継ぐ」ということを実践されています。皇太子さまがご会見で「両陛下は愛子にも戦争の話を聞かせていらっしゃるんですよ」とおっしゃったことがありますね。

秋篠宮様は記者会見で、両陛下の慰霊についてのご質問にこう答えられました。

「本当に子どものころからたびたび両陛下から戦争の話を聞きました。とくに1975年でしたでしょうか復帰から3年の沖縄海洋博が行われたときは、沖縄で非常に激しい地上戦があったことを、折に触れてというよりも、非常に頻りに沖縄戦の話を聞き、それに関する映画を観たりしました。その後もたびたび戦争の話を聞く機会がありました」。

「戦後の復興を見てこられた両陛下にとって、その礎となった人たちのことを考え、思いをはせなければいけないというお考えだったと思います。そして、1回、慰霊の旅をするごとにまた新たな事実を知ることになり、やはり慰霊をすることが非常に大切なことだという気持ちに自然になっていったと聞いております」。

「最初の疎開をされたのが静岡県沼津だったのです。沼津の疎開中、ある日学校の授業から帰って来た時、お付きの侍従からサイパンが陥落して非常に危ないので日光に疎開地を変更しますと言われ、サイパン陥落ということが大変なことだと強く印象に残ったと聞いております」。

天皇陛下がお子様方にお話しされるということは、我々に対しても語り継ぐということではないでしょうか。語り継ぐ天皇陛下のお姿を見て、語り継ぐことを受け継いでいこうとすることが大事じゃないかと思うのです。

天皇陛下は何かを伝えようとされているわけではない。前の侍従長は「陛下がなさっていること

やおっしゃっていることを見た人が何かを感じるのであれば、それは大切なことなんじゃないでしょうか」とおっしゃっていました。それを私なりに考えなおしてみますと、天皇陛下は政治家でもないし社会運動家でもないのだから、「〇〇をしなきゃいけません」とか「〇〇をしましょう」とおっしゃる立場ではない。やったほうがいいだろう、言ってしかるべきだろうということ、やられているだけです。それを見た人が陛下から何かを受け取るというよりも、陛下がなさることを見て、自分の気持ちに気づく。そういうのがいいのではないかと思うのです。

日の丸の掲揚や君が代斉唱についても「強制はあまりよくないのでは」と陛下はおっしゃっています。強制というのではなく、たとえばオリンピックで努力をし、それに見合う成績を上げた人が栄誉を受けて、そこに日の丸が掲揚され、君が代が讃じられたとき、日本の旗は美しい、日本の歌は素晴らしいと思う、そういう思いが大事ではないかと陛下はおっしゃっているのではないかと思います。

戦没者記念式典について天皇陛下は前から「ある人はこういう思いだといい、またある人はこういう思いだという。とくに戦争と平和についてはそうだ」とおっしゃっておられます。とくに戦争と平和について陛下が何か考えていらっしゃるわけがない。

大体、歴史について天皇陛下ほど知っている人は日本にはあまりいないんじゃないかと思います。天皇陛下に招かれたある歴史家の方から伺ったのですが、お食事が終わったあと両陛下とお話をしたとき、戦争の歴史について熱心に質問され、大変知識がおりで細かくお聞きになる。同時に天皇の名のもとに行われた戦争について、自分がどう受け止めていくべきか非常に真剣なお考えがご質問を通してよく伝わると。しかも昭和天皇から直接お話を聞きになっておられる方ですから、これほど歴史を知っている方はおられないと思うのです。

そういう方に対し、こういうふうにいるはずだなんていうのは大変僭越ではありますが、自分の考え方が大事であって、この人はどうだとか、この人はどう思っているかというよりも、自分がどうするかを大事にしようということ、陛下はおっしゃりたいのではないかと感じるのです。

生真面目で頑固なお人柄

天皇陛下のお人柄をひと言でいえば「真面目」です。ある宮内庁の古い長官が「真面目の上に二文字付く」と。何の文字か言わないかわりに「生真面目」と申し上げておきますが（笑）、陛下は朝の6時までには必ず起きてニュースをご覧になる。病気の時以外はずっと6時起きをご自分に課しておられるという。日曜日だからちょっと寝坊しようとかいうこともまったくないそうです。それで朝起きて皇后さまとお散歩をされて朝ご飯を食べて9時までに書斎に入られる。ある外国ご訪問の私的随行員をされた人がdiscipline、自己規制、自己を律するということを強く感じるとおっしゃっていました。

天皇陛下の乗っていらっしゃる車は平成3年式インテグラです。テニスに行かれるときは、テニスコートが皇宮警察の裏にあるので、ご自分で運転され、後ろに侍従と側衛官を乗せます。本末転倒のように思えますが、テニスは公的な活動ではない。公の活動ではないとき宮内庁の車に乗って技官に運転してもらうのはおかしいというお考えなのです。

車はお好きで昔から運転されていたようで、皇太子時代には那須の御用邸にも車を持っていかれました。御用邸から公道に出ようとして門を出る直前、車を止められたので、同乗の技官が「どうされましたか？」と訊ねたら、「うん、運転免許を忘れた」と（笑）。誰も陛下に免許携帯の有無など聞かないでしょうと思うのですが、そういうところが真面目なんですね。

2013年6月、第5回アフリカ開発会議のレセプションでアフリカ各国の元首がバスで来たことがありました。こういうときも、誰がどの国の元首かちゃんと勉強されるんですね。大勢の元首が一度に来られるので、顔と名前とご経歴が一致するよう外務省が作った資料を暗記されるのです。あるとき側近が「二度と会うことがないんですから、そんなに根を詰めて覚えなくても」と言ったら、「二度と会わないからこそ、やっているんです！」と強くおっしゃったそうです。

陛下は一般参賀に訪れた人々の記帳にもすべて目を通されているそうです。本当かな？と思ったのですが、お誕生日の一般参賀の後、ご学友に「〇〇（別の同級生）は記帳してくれていたね」とお

っしゃったとか。歌会始の応募作品にもすべて目を通されているそうです。

陛下は理屈に合わないことはやめようとおっしゃっています。外国人に勲章を授与し、掛けるお言葉に「国や社会を、というのは日本のことだろう。外国の人にとっては違うはずだ」と異論を述べ、このままでいいんじゃないですかと侍従長が言っても納得されない。頑固で真面目な方なんです。文化勲章も、文化芸術とは違う分野の方もあるので、いろいろお言葉を変えようと工夫されています。

沖縄の元知事だった屋良朝苗さんが亡くなったとき、お花を出せと陛下がおっしゃって、侍従が「元知事には出しません。元知事にまで出したら大変な数になってしまう」と断ったのに「屋良さんは沖縄返還のときの知事である。なぜ出せないのか」と納得されず、出すことになったとか。南アフリカのマンデラ大統領の国葬には皇太子殿下が参列しました。それまで日本の皇室は外国の王族以外の葬儀には出席したことがなかったのですが、これも陛下のご意向だろうと思います。

こういった背景にいるのはバイニング夫人ですね。バイニング夫人が陛下に教えたこととは、自分で決める。人間個人にも尊厳があるということ。あるとき東宮大夫が病気で入院した時、バイニング夫人から「お見舞いはなさいましたか」と聞かれ、「いや、まだしていません」「どうしてですか？」「侍従が何も言ってきましたから」「お見舞いは誰がするのですか？あなたがしたいのならすればよいのです、あなたが決めなさい」と。そういう教育をされたのです。

天皇陛下は科学的思考をお持ちで、国際会議で論文を書かれ、ネイチャーにも掲載されています。科学的思考があるから非常に話を詰める人なんです。生真面目で頑固で詰める……大変な人です（笑）。心臓手術のときは事前に天野先生に2時間、術式についていろいろ聞かれたそうです。

天皇陛下は必ず相手の目を見てお話しされます。必ず目の前の人に集中される。被災地での慰問のときもそうです。平成スタイルといういい方はお好きではないかもしれませんが、これが陛下のスタイルになっています。昭和天皇は一視同仁でしたが、天皇陛下はやはり一人一人に向き合う。国民とは一人一人の集まりだというお考えです。

ご高齢になられ、今年の全国戦没者追悼式では所作を間違えられたりして「注意深く集中し、間

違いのないように」とおっしゃっていましたが、陛下のご負担はなかなか軽減しません。その背景にあるのは、非常に大きなことだと思いますが、羽毛田長官が退任会見でおっしゃったように「象徴に基づく地位と、地位に基づく活動。この二つは一体不離である」という陛下のお考え。象徴としての地位と象徴としての活動は一体のものとはっきりおっしゃっているのです。

感性を大切にされる皇后さま

皇后さまも大変な読書家です。歌の岡井隆先生がおっしゃるには、皇后さまと話すときと古典から新著までいろいろな本をご存じで、これだけの教養と才能は次の世代には望めないのでは、とのことでした。

皇后さまは感性や感覚のようなものを大事にされているようです。南三陸町へ慰問された際は、体育館に上がるときスリッパを履いておられませんでした。町長さんが履いていなかったもので、私が履いちゃ悪いわ、ということで脱がれたという趣旨の話をしておられました。私は、皇后さまはスリッパを履かないで体育館を歩いたらどういふ感覚なのか知りたい、と思われたのではないかと想像します。

皆さんおっしゃるには、皇后さまはとにかくネットワークが広くてアンテナが高くてフットワークがいいということ。何か知りたいとなるとお友だちのもとへ突然、夜電話がかかってくるそうです。いろいろな筋から世の中のことをお聴きになっているんですね。

数年前、アイルランド大使館で開かれた「シェイマス・ヒーリーを悼む会」に皇后さまが参列されたことがあります。シェイマス・ヒーリーはノーベル賞を受賞したアイルランドの詩人ですが、訃報の報道発表もなければどこも取材していない。ヒーリーとはアイルランドでお会いになったことがあり、その後いろいろな交流があったそうです。

前にレバノン大使をやっていた人から「こないだ大使館でカレル・ジブラーン（「予言者」という詩で有名な文学者）の会があった時、皇后さまがいらっしやっただよね」と聞いたこともあります。

草津では毎年ピアノのワークショップもずっとやっていらっしやいます。人に会うのがお好きでときめく。音楽をやるのが楽しい。絵を見るのが楽しい。こういうことで若さを保っていらっしや

るのではないかと思います。

それと同時に、皇后さまはやはり天皇陛下のパートナー、サポーターという役割をずっと果たしておられ、自分はどちらかといえば陛下の臣下的立場でサポートをされているという。

皇后さまは嫁ぐ日の朝のことを、「家を離れる日の朝、父は、陛下と東宮様の御心に沿って生きていくようにと言い、母は黙って抱きしめてくれました」と振り返っておられます。お父親の言いつけをずっと守っておられるわけですね。要人との面談で陛下が会話に詰まったときも、皇后さまが「こうでしたわね」とか、陛下からお名前が出てこないときは「〇〇さんでしたわね」とさりげなくサポートされるのです。

御所では職員を集めてわらび取りや銀杏拾いをされたり、東宮の時代から職員全員の歌会を開き、立場に関係なく、いい歌はいいと評価し合ったりするそうです。1月15日には御所に勤める女性だけを集めてみんなでお茶を飲むという会もやっていらっしやいます。

東日本大震災の際、天皇陛下は国民に向かって「自らを律し、互いに助け合い、困難に立ち向かい、人間の尊厳を重んじ、平和を思う」と語り掛けました。これは、日本に住む私たちが伝統的に行ってきたことであり、天皇陛下ご自身が国の象徴としてやってこられたことです。

皇室に対し、ないほうがいいという考えもあるようです。天皇陛下が国の象徴としてお働きになっていることを、ふだんはなかなか考えませんが、皇位継承について考える機会があれば一緒に考えてまいりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

＜講師プロフィール＞

◆しんぼり ひろあき氏 1961年10月24日 東京都出身。

1984年東京大学法学部卒。同年共同通信社に入社し、長崎支局、京都支局、編集局社会部を経て、警視庁捜査一・三課を担当。さらに遊軍記者としてオウム真理教関連裁判やアトランタ五輪、オウム真理教の取材を受け持った。1997年4月から99年10月まで皇室を担当する。2003年の編集局社会部デスク・警視庁キャップなどをを経て、仙台支社編集部長、編集局編集委員、論説委員などを歴任。2015年4月から現職。太平洋戦争で日米の大激戦地だったパラオ・ペリリュー島への天皇、皇后陛下の慰霊にも同行し、両陛下の平和への強い決意を目の当たりにしたことが印象的だったという。

1997年「裁かれる教祖」（共同通信社編）の一部を執筆。1999年「歩み新たに―天皇陛下 御在位十年記念写真集」（共同通信社編）の文章を担当した。



ラジオマイト一ク

【平成28年10月23日放送】

社会保障の一翼を担いたい

うお み ひろし
魚 躬 弘 氏

日本生命保険相互会社
沼津支社長

▽モットー 時を守り 場を清め 礼を正す
▽趣味 読書、自転車(ロードバイク)、
ジョギング
▽出身地 東京都府中市

〈お話のポイント〉

♠富士川以東、伊豆までが営業エリアです。富士山がこれほど大きな姿に見える所で働くのは初めてで、感動しています。従業員は全体で560人、そのうち女性が9割です。

♥伊豆半島は25年もすれば、一人の高齢者を支える働く層は一人を切ってしまうので、自助努力で将来に備えるように職員に指示しています。最近、社長は社会保障を補完する会社から一翼を担う会社になろうと言っています。

◆4月に新発売した「グランエイジ」は従来

の死亡保障するという考え方から、死亡時の保障を行わず、長生きした際に年金額を大きくした高齢社会に対応しています。10月に発売の「シュシュ」は16歳から40歳の女性限定で3大疾病に加え、子供が生まれると出産給付金が支払われます。特定不妊治療給付金も支払われる少子化対応です。

♣長泉町と「地方創生に向けたパートナーシップ協定」を結びました。がん検診の無料化を打ち出した長泉町の受診率を高めるために日生職員がPR活動に協力します。

サンフロント21懇話会の会員情報

■新たに入会された方

- ◇(株)静岡博報堂 代表取締役社長 細川 俊彦
- ◇佐政水産(株) 専務取締役 佐藤 慎一郎

■会員の変更

- ◇富士商工会議所
会頭 井出 稔 → 会頭 牧田 一郎
- ◇伊豆箱根鉄道(株)
代表取締役社長 中村 仁 → 代表取締役社長 若林 久
- ◇近藤鋼材(株)
代表取締役会長 近藤 安敞 → 代表取締役社長 近藤 千秋
- ◇大東紡エステート(株)
取締役社長 菊地 広明 → 取締役社長 飯田 亙
- ◇沼津商工会議所
専務理事 木戸 英壽 → 専務理事 杉山 金芳
- ◇富士宮信用金庫
理事長 篠原 寛 → 理事長 井出 和秀
- ◇木内建設(株)沼津支店
支店長 小堀 信行 → 支店長 土屋 隆男
- ◇静岡県沼津市
市長 栗原 裕康 → 市長 大沼 明穂
- ◇税理士法人奈良橋・山本会計事務所
代表社員 山本 倫弘 → 代表社員 原川 篤